2010 年度版

エコアクション21
認証・登録番号0000666

エコアクション21
環境活動レポート
＝安全と環境＝

白川郷（合掌造り）

２０１０年７月

環境と化学のｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

ソーダニッカ株式会社

本社:東京都中央区　　支社:大阪市北区
支店:　札幌　仙台　静岡　名古屋　広島　高松　福岡

目　　次

ご挨拶 …… 1

環境方針 …… 2

1．事業の概要 …… 3

2．〝安全と環境〟について …… 5

3．2009 年度の環境活動を振り返る …… 5

（1）環境目標達成状況とその評価 …… 6

－ 化学物質の管理（ケミカルセンター） …… 10

－ 営業部門の環境貢献活動 …… 12

－ 地域の環境保全活動への参加 …… 15

（2）環境関連法規の遵守状況 …… 16

（3）代表者による全体の評価と見直し …… 17

4．2010 年度の環境目標と活動計画 …… 18

5．おわりに …… 19

6．当社の環境管理組織 …… 20

編集後記 …… 21

表紙の写真について

「合掌造り」は日本独特な建築様式で、屋根が手を合わせた形に似ているところから「合掌造り」と言われるようになったと伝えられています。

白川郷（岐阜県大野郡白川村）は五箇山（富山県南砺市）と合わせて、飛騨地方の「合掌造り」集落群として、1995 年 12 月 9 日ユネスコの世界遺産に登録されました。

（撮影 2007 年 7 月　永末裕之）

ご挨拶

地域社会との繋がりを大切にしながら、物流基地の安全管理を徹底し、信頼されるソーダニッカを構築して、地球環境保全を目指します

当社のｴｺｱｸｼｮﾝ 21 による環境活動は、本社(東京)が環境省策定の「環境活動評価プログラム」への 2002 年 12 月 27 日参加登録が契機となり、翌年 4 月 25 日には全支社支店の個別登録を完了し、全社の環境活動が本格開始となりました。

2005 年度には、全事業所の統合された一つの認証登録に移行してから、統制の取れた管理となり現在に至っています。

本社の登録から丸 7 年となり、全役職員の環境に対する意識は、登録当初に比べて格段に上がったと感じています。

営業面では、過去温暖化対策に向けた省エネルギー関連への投資が一昨年の金融危機で一旦滞りましたが、太陽光発電が個人･法人向け共に助成金が復活し国内で脚光を浴びるようになり、当社もこのチャンスに乗り遅れてはいけないと、成長分野の太陽光発電パネルメーカーと連携し販売戦略を練っていました。

太陽光発電は社内の省エネルギー対策の一環として、3 年前より導入を検討していた広島支店大野ケミカルセンターに太陽光発電パネルを 2010 年 5 月末に設置し、発電量をリアルタイムで表示するモニターを広島支店と本社(受付)に設置しました。

また、地域に根ざした物流基地の安全管理については、毎年防災訓練を行い、物流基地設備を定期的に補修しておりましたが、一部老朽化が進み安全面の観点から、近々全物流基地で全面的な総合点検を実施し順次補修を実施していく予定です。

本年 3 月に受賞した第 13 回環境コミュニケーション大賞・環境活動レポート部門『優秀賞』の名に恥じないよう、今後とも活動を充実し、継続させて行くことを約束いたします。

2010 年 7 月

代表取締役社長　　**柳　康洋**

ソーダニッカは、化学品専門商社として日本の基礎産業である化学工業にたずさわっており、化学工業薬品、合成樹脂原料・製品、産業用機器類の販売を行っている。また、主力薬品については、安定供給策として保管業務も行っている。

これらの事業をグローバルに展開する企業として、企業理念に掲げる『信用を第一』に『社会に貢献する』企業でありつづけるために、地球環境保全への取組みをソーダニッカにおける最重要課題と位置づける。

環　境　方　針

ソーダニッカ株式会社は、企業経営を通じて地球環境へ配慮していくことを目的に、以下のことを実施していきます。

1. 事業活動を通じた地球環境保護への取組み

企業経営において環境負荷の低減に積極的且つ継続的に取組んでいくために、自ら定めた目標に向かって全社員が自主的に行動する。また、営業活動においては環境負荷の少ない商品・技術・サービスを社会に提供するとともに、ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰにおいては安全管理と環境保全に努めていきます。

2. 資源・エネルギーの効率的利用

資源・エネルギーの消費や廃棄物の排出状況等をﾁｪｯｸし、環境への負荷を常に認識し、Reduce(廃棄物削減)、Reuse(再使用)、Recycle(再利用)、ｸﾞﾘｰﾝ購入に取組みます。

3. 環境関連法規の遵守

関連する環境法規制・基準及びその他の同意する要求事項を遵守します。

4. 継続的環境改善への取組み及び地域社会との共生

環境保全に関する目標を設定し、取組み結果を見直すなど継続的な環境改善に取組むとともに、地域社会との共生を実践するために社会貢献活動に積極的に参加していきます。

5. 環境活動の定着と環境情報の公表

全従業員に対して、この環境方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行い、環境保全活動の定着、向上に努めます。また、環境行動計画及びその実施状況並びに環境関連情報については『環境活動レポート』に取りまとめて公表します。

更新履歴

2005 年 4 月 1 日　制定

2008 年 4 月 1 日　更新

2008 年 4 月 1 日

ソーダニッカ株式会社

代表取締役社長　　柳　　康洋

1. 事業の概要

企　業　名　　ソーダニッカ株式会社　　URL:http://www.sodanikka.co.jp
本社所在地　　東京都中央区日本橋 3-6-2　日本橋ﾌﾛﾝﾄ
代　表　者　　取締役社長　　柳　康洋
創　　立　　1947 年 4 月 1 日
資　本　金　　37 億 6,250 万円（2010 年 7 月 1 日現在）
（東京証券取引所　第一部上場）

◆環境管理組織

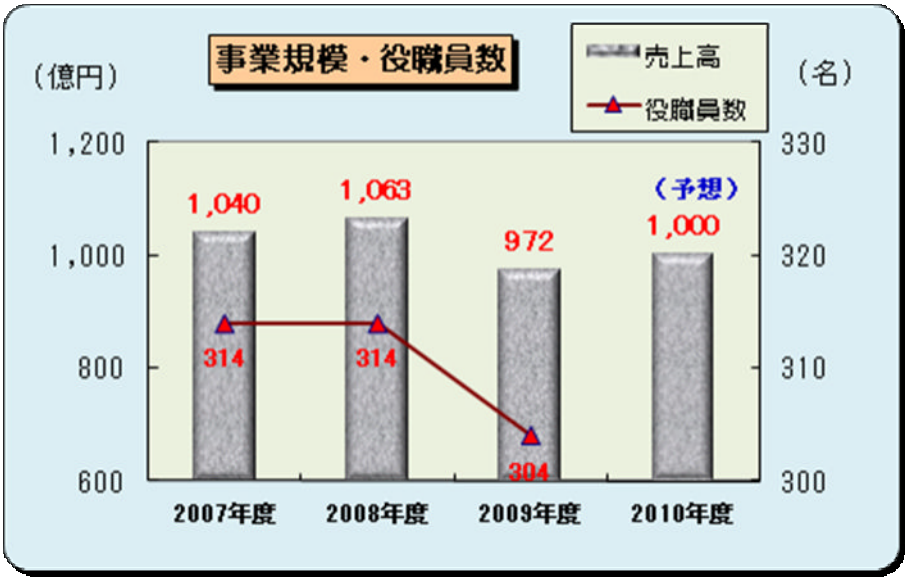
環境責任者　　執行役員　桃井 一知（環境担当役員）
担 当 部 署　　ｿｰﾀﾞﾆｯｶ EMS 委員会　事務局
環境担当者　　江幡 光隆（事務局・総括担当）
連　絡　先　　電話　03-3245-1824　　FAX　03-3245-1888
E-mail: m-ebata@sodanikka.co.jp

事 業 内 容

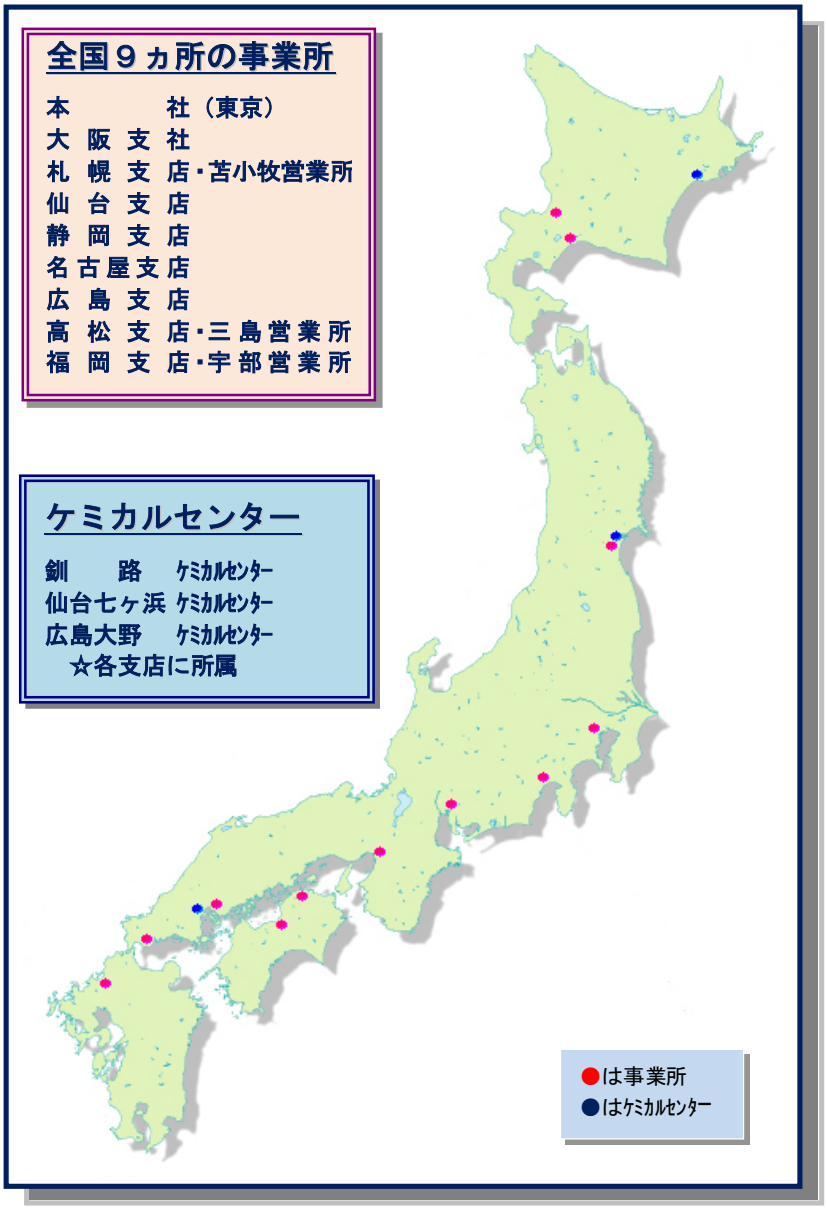
化学品専門商社として、全国 9 ヵ所に事業所を配置し、主として化学工業薬品、石油化学製品、合成樹脂原料及び加工製品、電子材料、産業用機器等の仕入・販売を行っています。

また、主力化学品については、輸送の合理化及び取引先への安定供給を目的として国内 3 ヵ所にケミカルセンター、1 ヵ所に倉庫を保有しています。

◆事業規模（売上高と役職員数の推移）（2010 年 3 月 31 日現在）



◆ｴｺｱｸｼｮﾝ 21 認証登録の対象範囲



◆事業所の規模（2010 年 4 月 1 日現在）

1．オフィス（賃借）

	床面積（㎡）	役職員数（人）
本　社（東京）	1，888	166
大 阪 支 社	446	33
札 幌 支 店	271	12
苫小牧営業所	57	3
仙 台 支 店	188	11
名古屋支店	190	14
広 島 支 店	197	12
高 松 支 店	235	11
三 島 営業所	166	5
福 岡 支 店	334	14
宇 部 営業所	129	3

2．静岡支店及びケミカルセンター（社有）

	事務所（㎡）	役職員数（人）	敷地（㎡）	倉庫（㎡）
静岡支店	204	12	4,070	827
釧路ケミカルセンター	75	6	7,770	―
七ケ浜ケミカルセンター	84	4	10,040	1,011
大野ケミカルセンター	117	6	2,612	264

2. ”安全と環境„について

当社の物流基地（ケミカルセンター）は、前項目に記載した全国４ヵ所に保有し、北海道、東北、東海、中国地方のお客様を中心に日々の要請に対応しております。

物流基地は、カ性ソーダ（水酸化ナトリウム水溶液）や濃硫酸など毒劇物と呼ばれる物質を多量に保管、取扱っておりますので、従業員、運搬車輌運転手への安全配慮、漏洩などによる環境汚染への防止、毒劇物の盗難防止策等今までも十分に配慮してまいりました。

一昨年夏の金融危機の後には、全国的に荷動きの悪さが当社にも及び、稼働率が下がってしまいました。

しかし、このような時期であるからこそ、物流基地については、重大事故が発生しないよう、意識をして運送業者を含めた安全会議を開催し従業員への安全教育の徹底、経年設備の点検･補修の実施、社会貢献活動を通じて、地域住民や取引先との信頼に応える努力を継続していこうと思います。

3. 2009年度の環境活動を振り返る

2009 年度は 3 ヵ年実行計画の 2 年目として、削減の流れを最終年度 2010 年度に繋げる年でした。2008 年度下期から 2009 年度上期は世界経済の停滞があったものの、当社の環境活動は比較的順調に推移いたしました。

2008 年 9 月に本社はビル再開発計画のため移転しましたが、移転先の新ビルでは今まで非管理であった空調電力を管理項目に加えたことで､残念ながら電力使用量が全社合計で 2008 年、2009 年共に増加となりました。

社有車についてはハイブリッド車への転換が進み、ガソリン使用量が大幅削減したことにより、電力の増加分を打ち消すほど当社二酸化炭素排出量減少が進みました。

『法律等のチェック』も、インターネットを使った法令管理システムを契約したことで、随時法律の遵守義務事項を確認することができるようになりました。

今年度の更新審査において指導を受けた改善すべき事項もありましたので、今後も改善努力をしてまいります。

環境営業の分野でも、製品のリサイクル活動は元より、政府案である温室効果ガスの 25%削減を踏まえた省エネルギー技術の一つである太陽電池モジュールの販売に着手することといたしました。

(1)環境目標達成状況とその評価

は環境目標

1. 二酸化炭素排出量の削減

全事業所から排出する二酸化炭素は、2010 年度までに基準年度（2007 年度）比 3 %削減する。

＜2009 年度目標＞ 基準年度（2007 年度）比で事務所毎に目標を定める。

【二酸化炭素】全事業所発生量の ＋ 3.2%増加を許容 (※1) (※2)

【電　　力】全事業所使用量の＋28.5%増加を許容 (※1)

【ガ ソ リ ン】全事業所使用量の△12.3%削減をする。

当社は、企業活動における二酸化炭素排出量をｵﾌｨｽ（事務所）とｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰ（製造）に分けて管理しています。

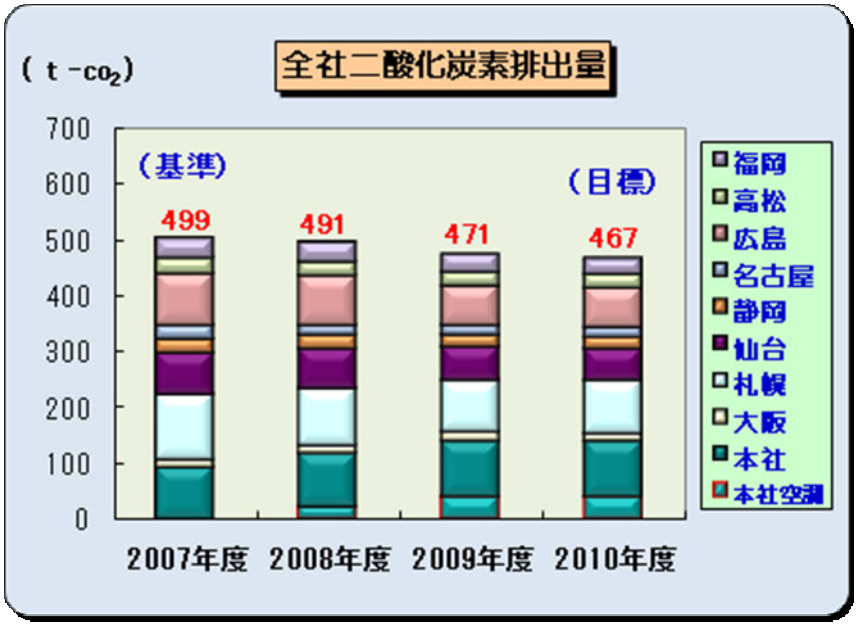
(※1) 2008 年 9 月の本社移転に伴い、本社空調電力を管理項目に追加した。

(※2) 電力量の CO_2 排出係数は 2009 年度発表の各電力会社排出係数(2007 年係数)を使用し、報告に当たり過去の CO_2 排出量の再計算を実施致しました。

2009 年度 全社二酸化炭素排出量

【目標】515t-CO_2 ＋3.2%（2007 年度比）(※2) 旧換算目標 457 t-CO_2

【結果】471t-CO_2 △5.6%（2007 年度比）



☆ 全社二酸化炭素排出量はｵﾌｨｽ及びｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰからの二酸化炭素排出量の合計です。

【二酸化炭素】

ｵﾌｨｽ	(割合 65%)	305t-CO_2	＋3.7%(2007 年度比)
ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰ	(割合 35%)	166t-CO_2	△19.0%(2007 年度比)

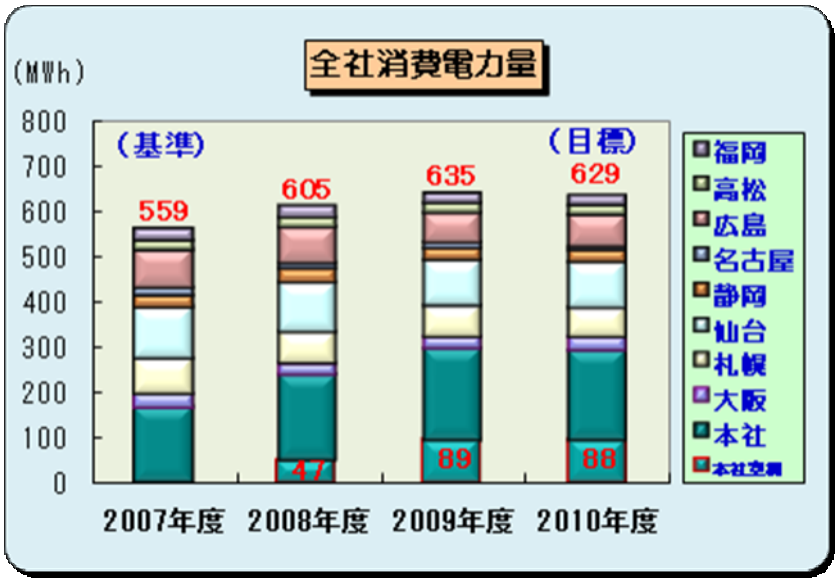
※ｵﾌｨｽの排出量が増加、ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰの排出量は大幅に減少しました。

要因：2009 年度ｵﾌｨｽ電力は本社移転(2008 年 9 月)により空調電力が増加。

ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰ電力は景気低迷による販売量減少に比例し排出量が減少した、
ｶﾞｿﾘﾝ消費量はﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ車導入により大幅に削減できた。

2009 年度 全社電力消費量

【目標】641MWh ＋14.7%（2007 年度比）
【結果】635MWh ＋13.6%（2007 年度比）達成

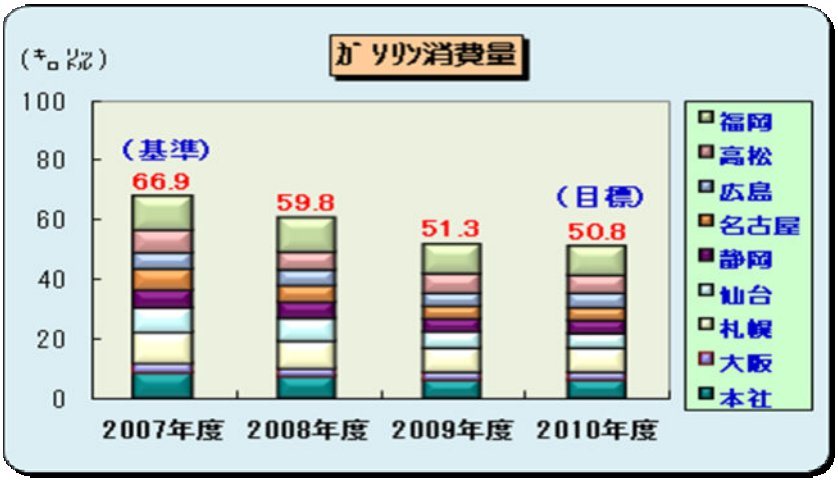


【電力】
- ｵﾌｨｽ（割合 62%） 443MWh ＋32.2%（2007 年度比）
- ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰ（割合 38%） 188MWh △16.1%（2007 年度比）

※ ｵﾌｨｽ電力消費量は増加、ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰ電力消費量は減少となりました。
※ 本社移転に伴う工事電力(28MWh)は対象外とした。
要因：2008 年 9 月に本社が移転し、空調電力を管理項目として追加した。
2009 年度は本社一般電力、本社空調電力共に増加した。

2009 年度 全社有車ガソリン消費量

【目標】59.4 ｷﾛﾘｯﾄﾙ △11.2%（2007 年度比）
【結果】51.3 ｷﾛﾘｯﾄﾙ △23.3%（2007 年度比） 達成



要因：全社有車のガソリン消費量は、全事業所において、ハイブリッド車への切り替えにより大幅に減少となりました。

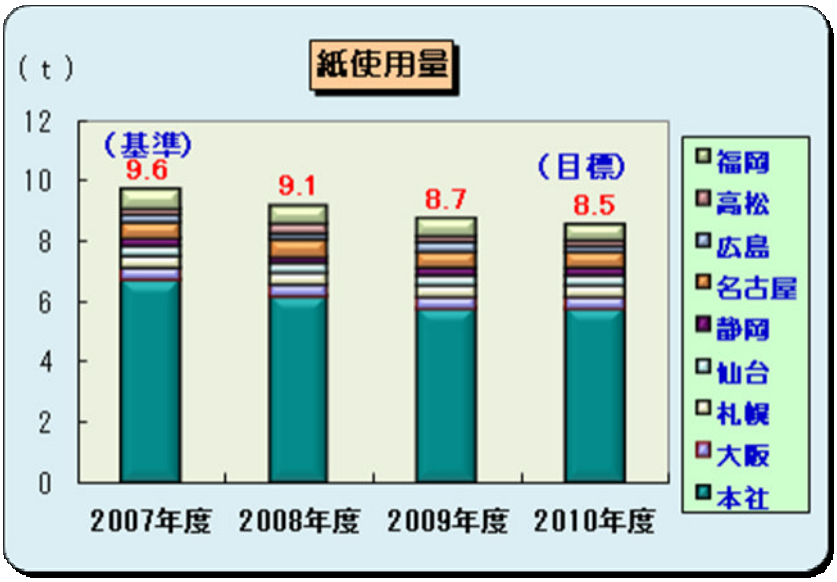
2. 紙使用量削減と再資源化の取組

（1）紙使用量は、2010 年度までに基準年度（2007 年度）比 3%削減する。
コピー用紙は、全事業所、全量「環境配慮型製品」とする。
※「環境配慮型製品」とは、当社「ｸﾞﾘｰﾝ調達ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ」を満たした商品とする。
（2）排出する紙資源は種類ごとに計量し、ﾘｻｲｸﾙに供する。
（3）機密を含む長期保存書類は、100%ﾘｻｲｸﾙに供する。

＜2009 年度目標＞ 基準年度（2007 年度）比で事業所ごとに目標を定める。
【紙使用量】全事業所として基準年度（2007 年度）比 7.2%削減する。

2009 年度 全社紙使用量

【目標】8.9 t △7.3%（2007 年度比）
【結果】8.7 t △9.4%（2007 年度比）達成



要因：コピー用紙は、東京でﾊﾟｿｺﾝからのﾀﾞｲﾚｸﾄ Fax 通信の導入効果で、使用量の削減が進んだ。支社･支店では早くから順調に削減実績が上がった背景もあり、本年の目標に対し未達の支店が出てきている。

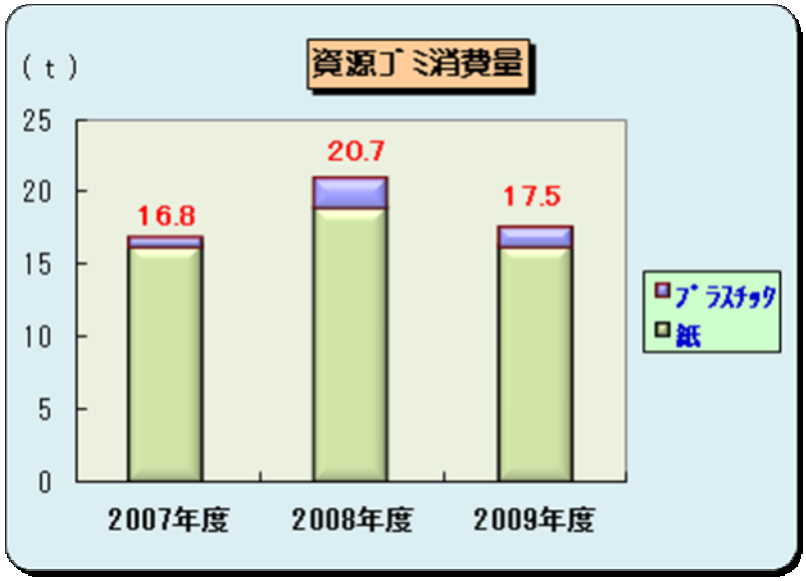
3. 廃棄物削減と分別回収

(1) 排出する一般ｺﾞﾐは分別・計量し、再資源化、削減に努める。
(2) プラスチック類は計量し、再生可能なものはリサイクルに供する。

2009 年度 全社資源ゴミ排出量

【目標】 20.7 t 0.0%（2008 年度比）
【結果】 17.5 t △15.5%（2008 年度比） 達成

紙は、新聞紙、雑誌･カタログ、コピー用紙、封筒、シュレッダー屑、段ボール、紙コップに区分して回収しています。
長期保存書類は 2007 年度より 100%リサイクル処理しています。



【資源ゴミ】
- 紙資源　（割合 90%）　16.1t　　△13.9%（2008 年度比）
- ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ（割合 10%）　1.4t　　△70.0%（2008 年度比）

要因：紙資源･ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｺﾞﾐ共に、2008 年 9 月本社の移転時の整理ゴミの廃棄が多量で、2009 年度は通常の排出量となったと考えられます。

4. 節水と排水管理

(1) 賃借ｵﾌｨｽ(事務所)においては、ﾋﾞﾙ管理会社等と協力して節水に取組む。
(2) ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰ、社有ｵﾌｨｽは、製品稀釈用水と生活水を区分管理し、生活水は前年実績以内に使用量を抑える。
(3) ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰは、水質汚濁防止法の特定施設基準（非該当）を自主基準として管理し、排水量を把握する。

【結果】ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰ生活水使用量　全事業所が前年より削減
ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰ排水量　全事業所が前年より削減

要因：2009 年度は節水意識の高まりと共に、景気低迷の影響により全ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰで使用量及び排水量の減少となった。

5. グリーン購入

・ 印刷物、事務用箋、封筒、名刺などは環境配慮型製品を使用する。

【結果】ｸﾞﾘｰﾝ購入はｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝに従って管理

紙、その他ｵﾌｨｽで使用する文具は、ｸﾞﾘｰﾝ調達ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝに則り購入します。

【全体評価】

オフィス電力：	本社は消灯ｴﾘｱの問題で、部分消灯徹底ができず、一般電力が増加した。2009 年度空調電力は 2008 年度の換算電力(2008 年度下期電力を 2 倍)を基準としていたが夏場に予想以上に空調電力が増加し、増加に歯止めがかからなかった。
ガソリン消費：	ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ車の導入、ｴｺﾄﾞﾗｲﾌﾞの実施、遠隔地出張は公共の交通機関とﾚﾝﾀｶｰを併用し、ガソリン消費量は概ね順調に削減できている。
ｺﾋﾟｰ用紙消費:	本社のﾀﾞｲﾚｸﾄ FAX 導入がｺﾋﾟｰ用紙の削減に寄与、全社的には、裏紙使用、会議でのﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ使用が浸透し、削減が進展。
廃棄物と分別:	全社的に紙ゴミの分別回収と計量を実施しています。 ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｺﾞﾐも分別回収を継続している。
節水と排水：	ｵﾌｨｽの節水はビル管理会社と協力し取組んでいます。 ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰでは一昨年の七ヶ浜が地下埋設水道管破損事故により、大幅増となりましたが、補修を完了しその後通常ﾚﾍﾞﾙに戻りました。
ｸﾞﾘｰﾝ購入：	コピー用紙は「ｸﾞﾘｰﾝ調達ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ」に則り環境配慮型製品を使用しています。

6. 化学物質の管理

(1) 化学物質の管理は、社内規程（手順、管理基準等）に従って行う。

(2) ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰでは、防災ﾏﾆｭｱﾙ等に従い、環境保全、災害防止に努める。

各ケミカルセンター毎に定めた危害防止規程に従い、日常点検で設備の安全性の有無を確認し、毎月の安全会議で基地内の問題点を把握、取引先との情報の交換、通達事項の伝達等により、安全管理に努めております。

1 年に一度、地域との防災訓練を実施し災害時の危害防止に努めています。

ケミカルセンター以外の事業所でも年一度以上、防災訓練に参加しております。

☆☆☆ ケミカルセンターの防災訓練を紹介します ☆☆☆

釧路ケミカルセンター

＜2009 年 11 月 11 日(水)＞　基地で実施　当社 4 名、運送業者他 7 名参加

＜災害想定＞　構内でﾀﾝｸﾛｰﾘｰ車へ苛性ソーダ積込後に、ｴｱｰﾊﾞﾙﾌﾞ閉め忘れによる液漏れが発生したとの想定で、漏れの防止処置、漏洩液の処置等の訓練を実施した。

① ﾛｰﾘｰの誘導

② 土嚢･ｺｰﾝ･ﾎﾟｰﾙ設置

七ケ浜ケミカルセンター

＜2009 年 10 月 30 日(金)＞　支店長以下 5 名、運送業者 6 名参加

＜災害想定＞　納入先のﾀﾝｸへﾀﾝｸﾛｰﾘｰ車から濃硫酸を納入終了後、ﾎｰｽ接続を外したところ残液が漏れたとの想定で、漏洩液の処置等の訓練が実施した。

① 訓練開始

② 漏洩液の清掃

静 岡 支 店

＜2009 年 9 月 1 日(火)＞　支店長以下 12 名、運送業者 3 名参加

＜災害想定＞　東海地震(震度 6 弱)の発生を想定し、緊急避難等の訓練を実施し、防災用品、消火器等の確認を実施した。

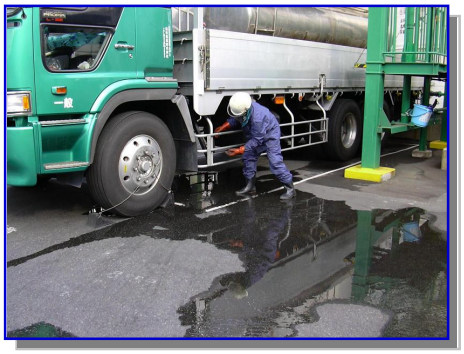
① 訓練開始

② 緊急避難

大野ケミカルセンター

＜2009 年 9 月 11 日(金)＞ 支店長以下 9 名、運送業者 11 名参加

＜災害想定＞ 構内において苛性ｿｰﾀﾞをﾀﾝｸﾛｰﾘｰ車に積込時に、ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰによる漏れが発生したとの想定で、漏れを止める処置、漏洩液の処理、眼に被液した負傷者の救護等の訓練を実施した。



① 漏洩発生

② 土嚢と漏洩液の排除

＜2009 年 10 月 16 日(金)＞ 当社 1 名、ﾒｰｶｰ･関連企業･消防署員 66 名

＜災害想定＞ 北九州市の運送店構内において共同安全訓練を実施。

ﾕｰｻﾞｰへﾀﾝｸﾛｰﾘｰ車から硫酸を納入開始した直後ﾎｰｽ取り付け不具合により接続ﾌﾗﾝｼﾞから漏れが発生したとの想定で、漏洩の防止、液の処理、被液者への救護等の訓練が実施された。

☆☆☆ 営業部門の活動を紹介します ☆☆☆

7. 営業部門の環境貢献活動

化学分野における 3R 推進、環境配慮型の製品・技術の開発・普及に努め、その取組については環境活動レポートで公表する。

また、PRTR 法該当化学物質については年間販売量の把握に努める。

当社は、中期経営計画において 3R 活動を推進しております。今回は、2009 年度から取組を始めた太陽電池モジュールの紹介と、広く環境へ影響を与えうる PRTR 法該当化学物質についての対応を説明させていただきます。

― 太陽電池モジュール販売への取組 ―

1.「太陽電池ﾓｼﾞｭｰﾙ販売への取り組み」

【太陽電池モジュール】

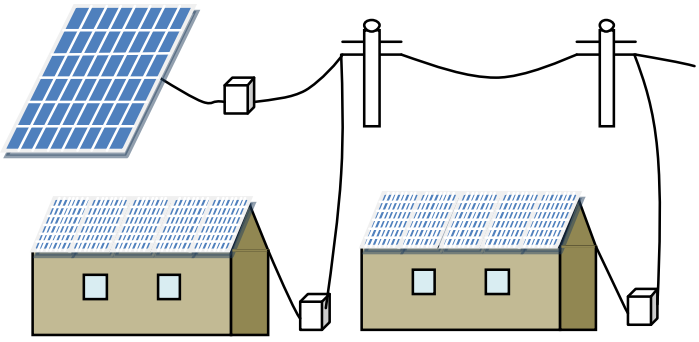
太陽光のエネルギーを直接電気に変換できる素子を大量に並べて、電力を得ることができるパネルです。

素子は結晶シリコン系が主流ですが、いろいろな方式がありそれぞれ長所短所を抱えています。

出力はパネル１枚(半畳ほど)で 80ｗ～100ｗ、それを数十枚並べて

家庭用では３ｋｗ程のパネルを屋根などに取り付けるのが一般的です。

(接続イメージ)



太陽電池モジュール
ソーラーフロンティア(株)製

【CIS 薄膜系太陽光電池モジュール】

ＣＩＳ太陽電池は３元素（Ｃ銅Ｉインジウム Ｓセレン）を主成分として、作られた太陽電池で、数々の特長を備えます。

＜特長＞

・素子が薄い　→　製造コスト・製造エネルギー・原料資源を削減

・素子が黒い　→　落ち着いたデザイン可能

・素子が長い　→　一素子が長く、部分的陰りでの出力落ちが少ない

＜欠点＞

・単位面積出力が少し低い　→　シリコン素子より少し低い
少し広めの設置面積が必要

2.「自社ケミカルセンターでの取り組み」(*2009 年度の環境活動範囲外：参考)

【大野ケミカルセンター】

・2010 年５月末に、事務所駐車場の屋根に太陽電池モジュールを設置し運用を開始しました。中国電力との売電契約も済み、後は太陽光を沢山浴びて十分な発電を期待するのみです。今後の運用実績に関しては次回「2011 年度版環境活動レポート」で報告する予定です。

① 大野ケミカルセンター全景

① 駐車場屋根上に設置した
太陽電池モジュール

【設置太陽電池モジュール】

＜メーカー＞　ソーラーフロンティア（株）

＜モジュール＞　CIS 薄膜式

＜定格出力＞　４.５９KW（85W 品×54 枚）

※太陽電池モジュールご相談は環境営業部へ　０３－３２４５－１８１５

― PRTR 法該当化学物質について ―

「PRTR 法該当物質年間販売量について」

「EA21 2009 年版ガイドライン」には、販売する事業者は該当化学物質使用量を把握するとの項目が入りましたので、当社としては使用量の代わりに 2009 年度の該当化学物質の販売量を把握することと致しました。

・PRTR 法：「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（平成 11 年法律第 86 号）

・該当化学物質：PRTR 法該当物質（第一種 462 物質、第二種 100 物質）

・当社は PRTR 法の報告義務対象事業所ではありません。

・PRTR 法は該当物質の排出量の把握及び報告の義務であって、販売量の報告義務はありません。

☆☆☆ 事業所ごとの環境保全活動を紹介します ☆☆☆

8. 地域の環境保全活動への参加
事業所ごとに、地域環境活動に参加、協力や支援を行う。

2009 年度も継続して一部を除いた全事業所で環境保全活動を実施しました。

本社：「まちかどｸﾘｰﾝﾃﾞｰ」
毎月 10 日

本社：「ｺﾞﾐｾﾞﾛｸﾘｰﾝﾃﾞｰ」
2009 年 5 月 31 日

大阪：「ｸﾘｰﾝおおさか 2009」
2009 年 11 月 4 日

釧路：「海の日記念海岸清掃」
2009 年 7 月 16 日

仙台：「広瀬川 1 万人ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」
2009 年 9 月 26 日

七ヶ浜：「東宮浜一斉清掃」
2009 年 7 月 14 日他

静岡：「田子の浦港まつり清掃」
2009 年 7 月 12 日

名古屋：「川と海のクリーン大作戦」他
2009 年 11 月 1 日

広島：「ｺﾞﾐｾﾞﾛ･ｸﾘｰﾝｳｵｰｸ」他
2009 年 6 月 7 日

大野：「草刈清掃」
2009 年 7 月 14 日

高松：「中央通り一斉清掃」4 回
2009 年 6 月 4 日～

福岡：「ﾗﾌﾞｱｰｽ･ｸﾘｰﾝｱｯﾌﾟ 2009」
2009 年 5 月 31 日

(2) 環境関連法規等の遵守状況（最近3カ年）

環境関連法規等の最新改訂内容については、契約したｲﾝﾀｰﾈｯﾄ法令管理ｼｽﾃﾑを使って確認し「遵守状況ﾁｪｯｸﾘｽﾄ」を作成し、それを使用し昨年度は 2 回確認しました。

その結果、全部店において、違反行為、行政等からの指導、利害関係者からの苦情及び訴訟は全くありませんでした。

【当社が関係する主たる法令】

＜ケミカルセンター関係＞

法　令	目　的
［廃棄物処理法］	廃棄物の処理
［労働安全衛生法］	労働者の安全
［消防法］	建物、危険物管理
［毒物劇物取締法］	商品製造･管理、安全輸送
［海洋汚染防止法］	基地、船受入時汚染防止
＜営業関係＞	
［毒物劇物取締法］	毒物劇物の輸送･販売
［高圧ガス保安法］	高圧ガスの輸送･販売
［消防法］	危険物の輸送
［化管法］（PRTR 法）	MSDS(商品安全情報表）の配付
［化審法］	新規物質の販売
＜貿易関係＞	
［毒物劇物取締法］	毒物劇物輸送時の安全･標記
［化審法］	新規物質･輸出入禁止製品の規制
＜総務関係＞	
［労働安全衛生法］	役職員の健康と安全確保
[健康増進法]	事務所内分煙
＜全社関係＞	
［省エネルギー法］	ｴﾈﾙｷﾞｰ使用の効率化

【2009 年度登録簿への追加】

新たに追加した項目はありません。

【2009 年度登録簿から削除】

新たに削除した項目はありません。

（3）代表者による全体の評価と見直し

『環境活動への取組状況』は、部門で作成した「環境活動実施状況報告書」や「内部環境監査結果」、「環境負荷ﾃﾞｰﾀ」に基づき四半期ごとに『環境経営ﾏﾆｭｱﾙ運用状況』としてまとめ、環境責任者から代表者に報告されています。

『内部環境監査』については、5 月の講習で監査員 7 名を新たに任命し、22 名で監査要領に従い、10 月～12 月にかけて全 15 部門の監査を実施いたしました。

『2009 年度の目標』は、2007 年度を基準として 3 ヵ年計画の 2 年目として、現実的な目標といたしました。

『紙使用量削減』については、圧倒的に使用量の多い本社においてﾀﾞｲﾚｸﾄ Fax 送信を導入したことにより大きな削減効果がでました。

『廃棄物削減･ﾘｻｲｸﾙ』、『ｹﾐｶﾙｾﾝﾀｰの安全確保』、『3R 環境営業活動』、『社会貢献活動』は各事業所とも定着してきました。

『更新審査』における指摘･推奨事項も 2010 年度のﾏﾆｭｱﾙで改訂することとしました。

4. 2010年度の環境目標と活動計画

「ｴｺｱｸｼｮﾝ 21 ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ」が 2004 年版から 2009 年版に変更となることに伴い、当社の「環境経営ﾏﾆｭｱﾙ 2010 年度版」も 2009 年版に準拠することと致しました。

《ﾏﾆｭｱﾙの変更点》

・マニュアル項目数　12 項目　→　13 項目
・電力の二酸化炭素排出係数を統一係数(0.378kg-CO_2/kwh)から各電力会社の発表係数(2007 年係数)に変更
・二酸化炭素排出量の長期削減目標（10 ヵ年）を定める。
・太陽光発電等新エネルギー使用導入を検討する。
・化学物質の販売量を把握し公表する。（PRTR 法該当商品）
・法令チェック回数　　2 回　→　1 回（6 月のみ）

《環境目標》

1. ＜二酸化炭素排出量削減＞
・2010 年度の全事業所の排出量を 2009 年度比１％削減とする。
・中期目標（3 ヵ年）は 2013 年度迄に 2010 年度比３％削減とする。（2011 年度策定）
・長期目標（10 ヵ年）は 2020 年度迄に 2010 年度比１０％削減とする。(2011 年度策定)
2. ＜紙使用量と再資源化＞
・2010 年度の全事業所の使用量を 2009 年度比１％削減とする。
・中期目標（3 ヵ年）は 2013 年度迄に 2010 年度比３％削減とする。（2011 年度策定）
3. ＜廃棄物削減と分別回収＞
・紙資源は種類ごとに計量し、リサイクルに供する。
・長期保存書類は、100%リサイクルに供する。
・プラスチック類は選別計量し、リサイクルに供する。
4. ＜節水と排水管理＞
・賃借ビルでは、ビル管理会社と協力し節水に努める。
・ケミカルセンターは、製品希釈用と生活水を区分して管理。
・ケミカルセンター、静岡支店は、排水量を把握し、排水基準を遵守。
5. ＜グリーン購入＞
・印刷物、封筒等は環境配慮型製品を使用する。
6. ＜化学物質の管理＞
・化学物質の取扱は社内規程に則った手順･基準に従い、安全管理、環境保全に努める。
7. ＜営業部門の環境貢献活動＞
・化学分野における３Ｒ活動を推進する。
・環境配慮型の製品･技術の開発･普及に努める。
・前記載項の取組みを環境活動レポートで公表する。

・PRTR 法該当化学物質は年間販売量の把握に努める。

8. ＜地域の環境保全＞

・事業所ごとにボランティア活動などに参加･協力･支援をし、地域社会との共生を推進する。

5. おわりに

2009 年度の二酸化炭素排出量が、本社移転に伴う空調電力分が増加したにも係わらず、減少となったのは、全社的なハイブリッド車導入の影響が大きいのですが、それに景気低迷による物流基地の荷動きの悪さも影響しました。あまり喜ばしいことではないが、二酸化炭素排出量が減少することは良いことではないかと考えます。

ところで、国の施策はどうなのでしょうか？まずは国民に削減の意欲を示すためにも、夜間のネオンや深夜テレビ放送の自粛、深夜営業の自粛などしても良いのではと思いますが、やはり無理なのでしょうか。

また、私達もノー残業デーの日は家に早く帰り、帰宅後は家庭での省エネ活動も必要ではないでしょうか。

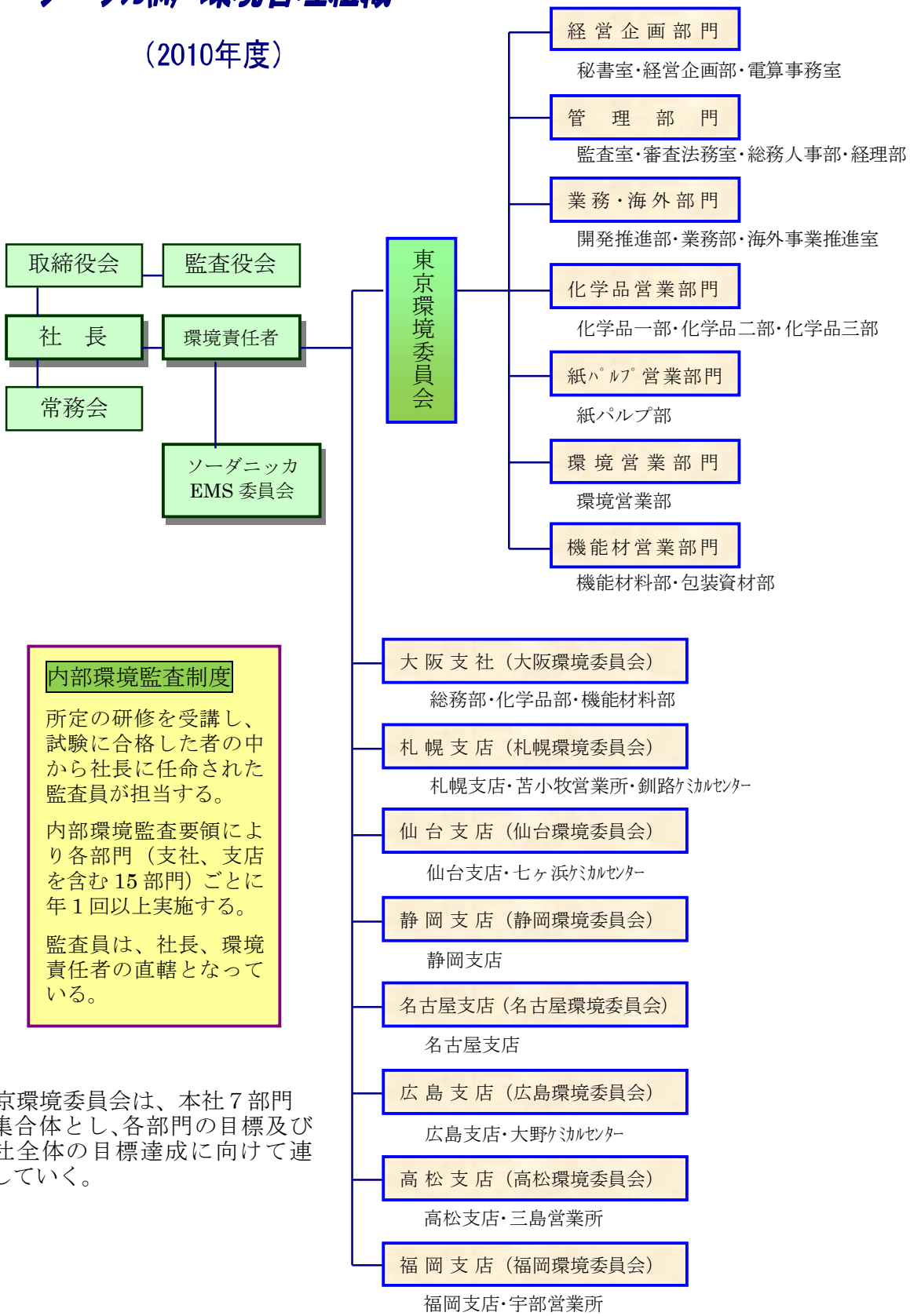
なお今年もエコピープル（東京商工会議所主催 環境社会検定試験[ECO 検定]合格者）が 6 名増えて 32 名となりました。

大台ケ原（奈良県吉野郡～三重県多気郡）

（撮影 2008 年 6 月 永末裕之）

ソーダニッカ㈱ 環境管理組織

（2010年度）



内部環境監査制度

所定の研修を受講し、試験に合格した者の中から社長に任命された監査員が担当する。

内部環境監査要領により各部門（支社、支店を含む 15 部門）ごとに年 1 回以上実施する。

監査員は、社長、環境責任者の直轄となっている。

東京環境委員会は、本社７部門の集合体とし、各部門の目標及び本社全体の目標達成に向けて連携していく。

編集後記

事務局で環境活動を長く見ていると、年々少しずつですが全社的な活動は確実に進捗しているのは肌で感じます。役職員一人一人の小さな努力の積み重ねが大きな流れとなり、成果に結びついているのでしょう。

ただ世の中の環境活動にはやや疑問を感じるときがあります。テレビや雑誌などでも取り上げられ、規制も徐々に厳しいものに成りつつありますが、本当の危機感意識が国民に伝わっているのだろうかと思ってしまいます。

のど元過ぎれば･･･と言う言葉があるように、危機感をずっと継続して意識して行くことは大変難しいことなのですが、あまり無理をせずに淡々と対応し、後は天に任せるのが良いのかなと思います。

第 13 回環境ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ大賞のｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑで、環境活動に罰則はそぐわない、日本には昔から『お天道様が見ている』との良い話がありました。妙に耳に残っています。

M.E.（事務局）

環境活動レポート（2010 年度版）

発行　20010 年 7 月 1 日

ソーダニッカ株式会社　ＥＭＳ委員会

〒103-8322　東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋ﾌﾛﾝﾄ

電話：03-3245-1824　fax 03-3245-1888

URL：http://www.sodanikka.co.jp

E-mail：m-ebata@sodanikka.co.jp

人に、自然に、やさしい環境を
化学のチカラによって
明るい未来を創造します。

人に美しい自然を子供たちに
残すため、私たちは
人と環境との調和を
化学の多様性を駆使し、
チャレンジしてまいります。

ソーダニッカ株式会社

東京都中央区日本橋 3-6-2　TEL03-3245-1824
http://www.sodanikka.co.jp

この環境活動ﾚﾎﾟｰﾄは、再生紙を使用しています。